

「英語学/英語学 I (2011 年度後期)」：授業評価アンケート結果とその考察

英語教育専修・国際理解教育コース

「英語学/英語学 I」は、学校教員養成課程および総合人間形成課程国際理解教育コースの英語教員免許状取得希望学生にとっての必修科目である。授業の目標、到達目標、授業概要についてはウェブ上のシラバスを参照されたい。DP の上では、学校教員養成課程、国際理解教育コース共に、DP1「... 得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)」に対応することが意図された授業である。

この授業は全ての回が担当者自作のワークシートに基づいて進められた。毎回の授業時に内容確認シート(出席カードを兼ねる)を用意し、学んだ内容を授業終了時に振り返ってもらった。内容確認シートは、採点した上で、必要があればコメントおよび質問に対する回答を添えて返却した(最終回授業時のものを除く)。成績評価には、持ち帰りワークシートを使用した(第 13 回授業時に配布)。DP への対応についての統一アンケートは第 12 回授業時に行い(回答者 29 名)、授業評価アンケートは最終回授業時に行なった(回答者 32 名)。なお今年度より DP との対応という課題も加わったため、必修科目ということもあり、3 年連続ではあるがこの授業を取り上げた。

まず DP への対応については、29 名の回答者全員が DP1 に関して肯定的回答(「対応していた」(19 名)/「どちらかといえば対応していた」(10 名))を選択しており、担当者の意図通りの結果となった。

授業評価アンケートの結果は以下の通りである。括弧内は、2010 年度の「英語学/英語学 I」で行った授業評価アンケートの結果である(回答者数 27 名)。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。(1. 全く意欲がわかなかった: 0/32 (0/27); 2. あまり意欲的に取り組まなかった: 0/32 (2/27); 3. どちらとも言えない: 10/32 (6/27); 4. やや意欲的に取り組んだ: 17/32 (17/27); 5. 非常に意欲的に取り組んだ: 5/32 (2/27); 平均値: 3.844 (3.704))

肯定的な評価(4 または 5)をした学生数が 22/32 (69%)であり、2010 年度の 19/27 (70%)と比べて大きな変化はなかった。今後もより多くの学生が意欲的に取り組める授業を行うことに努めたい。

B この授業で使われたワークシートにつ

いてお尋ねします。

B-1 全般的に言って、ワークシートの作業の難易度についてどう思いますか。(1. 非常に難しかった: 1/32 (1/27); 2. やや難しかった: 6/32 (8/27); 3. ちょうどよい: 22/32 (14/27); 4. 比較的やさしかった: 1/32 (4/27); 5. 非常にやさしかった: 2/32 (0/27); 平均値: 2.91 (2.78))

「ちょうどよい」の評価をした学生が 22/32 (69%)であり、2010 年度の 14/27 (52%)よりも増えている。今後も適切な難易度のワークシートの作成に努めたい。

B-2 それぞれのワークシートの種類、難易度に左右される部分が多いと思いますが、全般的に言ってワークシートに沿ったかたちで進められた担当教員の話は分かりやすかったですか。(1. 非常に分かりにくかった: 2/32 (0/27); 2. やや分かりにくかった: 4/32 (2/27); 3. どちらとも言えない: 2/32 (5/27); 4. 比較的分かりやすかった: 20/32 (16/27); 5. 非常に分かりやすかった: 4/32 (4/27); 平均値: 3.63 (3.81))

肯定的な評価をした学生数が 24/32 (75%)であり、2010 年度の 20/27 (74%)と比べて大きな変化はなかった。否定的な評価(1 ないしは 2)をした学生数が 6/32 (19%)であり、2009 年度の 2/27 (7%)に比べて大きく上がっている。この点は反省点である。

B-3 ワークシートの作業から学んだ内容およびそれに関連する担当教員の話は、(難易度は別にして)あなたにとっておもしろい(知的好奇心をくすぐる、といった意味で)ものでしたか。(1. 全くおもしろくなかった: 0/32 (0/27); 2. あまりおもしろくなかった: 1/32 (3/27); 3. どちらともいえない: 14/32 (8/27); 4. 比較のおもしろかった: 14/32 (15/27); 5. 非常におもしろかった: 3/32 (1/27); 平均値: 3.59 (3.52))

肯定的な評価をした学生数は 17/32 (53%)であり、2010 年度の 16/27 (59%)から僅かながら数値が下がった。平均値は 2010 年度の数値とほぼ変わらなかった。否定的な評価をした学生の数も 1 名と、2010 年度からの僅かではあるが減少した。言語の規則性を科学的に考えることの面白さが伝わるような授業にする工夫を重ねたい。

C この授業の担当教員についてお尋ねします。

C-1 担当教員は、受講者にとって参加しや

すく、かつわかりやすい授業を行おうとする努力、工夫をしているように感じられましたか。(1. 全く感じられなかった: 0/32 (0/27); 2. あまり感じられなかった: 0/32 (2/27); 3. どちらとも言えない: 7/32 (5/27); 4. 比較的強く感じられた: 17/32 (16/27); 5. 非常に強く感じられた: 8/32 (4/27); 平均値: 4.03 (3.82))

肯定的な評価をした学生は 25/32 (78%)であり、2010年度の20/27 (74%)に比べると僅かに数値を上げている。平均値も僅かながら上がっており、否定的な評価をした学生も存在しなかった。今後も授業をわかりやすいものにする努力を継続したい。

C-2 担当教員は、受講者の意見や疑問をくみ取り、かつそうした意見や疑問に真摯に答えようとしているように感じられましたか。(1. 全く感じられなかった: 0/32 (0/27); 2. あまり感じられなかった: 1/32 (1/27); 3. どちらとも言えない: 7/32 (4/27); 4. 比較的強く感じられた: 16/32 (13/27); 5. 非常に強く感じられた: 8/32 (9/27); 平均値: 3.97 (4.11))

肯定的な評価をした学生数が 24/32 (75%)であり、2010年度の22/27 (81%)から下がってしまっている。平均値も2010年度より僅かながら低下している。受講者が現在の授業形態に慣れたため、数値が落ち着いてきたものと見ることも出来る。理由はともあれ、比較的高い評価がなされている項目でもあり、今後も現状の授業形態を維持したいと考えている。

D 各回の内容確認シートについてお尋ねします。内容確認シートは、当該の回に学んだ内容を振り返ったり、理解を深めたりするのに有益だと思えましたか。(1. 全く有益には思えなかった: 0/32 (0/27); 2. あまり有益には思えなかった: 0/32 (0/27); 3. どちらとも言えない: 4/32 (2/27); 4. 比較的有益なように思えた: 21/32 (20/27); 5. 非常に有益なように思えた: 7/32 (5/27); 平均値: 4.09 (4.09))

肯定的な評価をした学生数が 28/32 (88%)と、2010年度の25/27 (92%)から僅かに下がったものの、依然として高く、平均値も比較的高いものと言える。内容確認シートは、2010年度に引き続き、好意的に評価されているものとみてよいだろう。今後も内容確認シートの使用を継続するとともに、その内容の検討もすすめたい。

E 最終課題の持ち帰りワークシートについてお尋ねします。持ち帰りワークシートは、この授業で学んだ事柄あるいは考え方について、再度復習したり理解を深めたりするのに有益だと思えますか。まだ持ち帰りワークシートの作業を始めていない人、

あるいは眺めてもいない人はこの間に回答しなくて構いません(回答者 30名、2010年度の回答者は22名)。(1. 全然有益ではない: 0/30 (0/22); 2. あまり有益には思えない: 1/30 (1/22); 3. どちらとも言えない: 3/30 (3/22); 4. 比較的有益なように思える: 16/30 (14/22); 5. 非常に有益なように思える: 10/30 (4/22); 平均値: 4.17 (3.96))

肯定的な評価をした学生数が 26/30 (87%)であり、2010年度の18/22 (82%)より数値が上がっている。成績評価に用いるワークシートとは言え、受講者がその内容にある程度納得していることを示すと考えられるかもしれない。最終課題には、成績評価という目的だけではなく、学習内容の整理・確認という目的もあるため、持ち帰りワークシートの充実に向けて今後も努力を重ねたい。

F あなたは、この授業を通して、外国語としての英語、母語としての日本語、あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性に興味・関心が向くようになりましたか。

(1. 全くそういった興味・関心が持てなかった: 0/32 (0/27); 2. あまりそういった興味・関心が持てなかった: 1/32 (1/27); 3. どちらとも言えない: 5/32 (4/27); 4. そういった興味・関心をやや持つようになった: 19/32 (18/27); 5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった: 7/32 (4/27); 平均値: 4.00 (3.93))

肯定的な評価をした学生数が 26/32 (81%)であり、2010年度の22/27 (81%)から大きな変化は見られない。また平均値にも大きな者が見られなかった。ある程度言語の規則性についての関心を掻き立てることが出来たと考えてよいだろう。

G 最後にこの授業全体を振り返って、何か一言

この自由記述に回答した学生数は 15/32であったが、授業の内容および担当者の姿勢について否定的な評価を書いた学生はいなかった。

まとめ

アンケート結果から判断する限り、この授業に対する評価はまずまずと見てよいだろう。また2010年度と比較して大きな低下が見られた訳でもない(大きな向上が見られた訳でもないが)。毎回配布した内容確認シートに対する評価が依然として高く、次年度以降もこの形態を継続する必要性を強く感じている。